（別紙様式）　　（Ａ３判横）

令 和 元 年 度　学 校 評 価 総 括 表　（ 徳島県立徳島科学技術高等学校　全日制課程 ）

基本方針	科学技術の高度化・複合化，社会の変化や産業界の要望に対応した専門教育を展開する。
基本目標	①　礼儀，責任，勤労，技術の調和のとれた教育を推進し，心豊かで創造力に富み，主体的・協働的に行動できる人間を育成する。 ②　基本的人権を尊重し，自他を大切にし，地域社会や国際社会に貢献できる人間を育成する。 ③　技術革新や社会の要請に対応しうる，実践力を身につけた技術者を育成する。
重点目標	①　進学希望者と就職希望者の両者を支援するハイブリッド型(複線型の進路体系)教育システムを生かし，生徒の個性を伸ばす教育を展開する。 ②　工業・水産教育を核とした教育活動全体を通して，主体的に学習し，他者と協働できる人材の育成を図る。 ③　持続可能な社会の実現に向けた取組や技術者としての倫理観の育成など，これからの社会に求められる特色ある教育活動を実践する。

達成度				
	A	十分達成できた	C	変化の兆しがあった
	B	概ね達成できた	D	達成が不十分であった

本年度の具体的目標	テーマ **倫理観の高揚に努め，豊かな人間性を育むとともに，ＳＳＨでの取組を主体的・対話的で深い学びの実現につなげ，社会の変化に対応できる力を養う教育を推進する。**
	①　文武両道を実践し，何事にも主体的に取り組むとともに他者と協働する態度を養う。［主体的・協働的に取り組む姿勢の育成］ ②　社会的・職業的自立に必要な知識・技術・技能・態度を身につけ，社会の変化に対応でき，地域社会や産業界に貢献し得る実践的な技術者を育成する。　［専門教育の推進］ ③　「徳島県キャリア教育推進指針Ⅱ」に基づき，変化の激しい社会を生き抜く力を身につけるキャリア教育を推進する。　［キャリア教育の充実］

年度総合評価

重 点 課 題	SSH 部	人権教育	学習指導	生徒指導	進路指導	教育相談 特別支援教育	環境教育	防災教育	保健安全教育	特別活動	工業・水産教育 （高大連携） （ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ）	工業・水産教育 （ｽｷﾙｽﾀﾝﾀﾞｰﾄﾞ） （資格） （コンテスト）	家庭・地域との連携
番　号	１，２	３，４，５	６，７，８	９，10，11，12	13，14，15，16	17，18，19	20	21	22	23，24	25	26	27，28，29
総 合 評 価	A	B	B	B	A	B	B	B	B	A	B	B	B

学　校　自　己　評　価

年　度　目　標					年　度　評　価（　３　月　１　日 現在　）			
番号	重点課題	重点目標	活動計画	活動の評価指標（目標値）	評価指標の達成状況	総合評価	効果と検証	次年度への課題と改善策
1	ＳＳＨ部 ①　ＳＳＨ事業の取組を行うことにより，理数系教育を通して，科学技術人材の育成を図る。	①　課題研究発表会等により，プレゼンテーション能力の育成を図り，主体的に取り組む能力を養う。 （ＳＳＨ部・各類・コース）	①　年度末にＳＳＨ研究発表会を開催する。 ②　各種コンテスト，発表会等に積極的に参加する。	①　各コースごとに研究テーマを発表する。 発表を 11 テーマ以上とする。 ②　各種コンテスト等に参加し，入賞以上を目指す。	①　ＳＳＨ研究発表会で，５テーマの口頭発表と９テーマのポスター発表を行った。 ②　全国や四国地区，県内ＳＳＨ発表会や他校や大学主催の発表会にて取組を発表した。また，科学の甲子園等にも参加した。 （活動計画の実施状況） ①　２月 12 日に実施。 ②　随時実施。	（達成度） A （所見） ①②　計画通りに実施できた。	①　各コース１テーマ以上発表をすることで，ＳＳＨに関する意識付けができ，プレゼンテーション能力の向上にも繋がった。保健厚生委員会からの発表も実施でき，類・コース・学年を越えた研究ができた。 ＡＯ入試において，自己PRに大いに役立った。 ②　発表会へ積極的に参加した。	①　本年度開発した学校独自ノートの導入により，課題研究の高度化に取り組み，科学技術人材の育成を目指す。 ②　参加人数及び入賞数を増やす。
2		②　ＳＳＨの取組により，生徒の興味や関心を持たせる。 （ＳＳＨ部・各類・コース）	①　魅力あるＳＳＨ事業を展開し，理科・数学への興味や関心を向上させる。	①　「ＳＳＨの各種事業に参加して，科学技術に興味・関心が増した」70 %以上。	（評価指標による達成度） ①　１年生　71.3 % ２年生　62.1 % ３年生　70.7 % （活動計画の実施状況） ①　ＳＳＨ研究発表会後にアンケート調査を行った。	（達成度） A （所見） ２年生で達成度が低くなったが概ね達成できた。	①　ＳＳＨや理数科目への興味・関心が得られた。課題研究等の探究活動の意識付けができた。	①　カリキュラム改訂により，１年生から探究活動を導入し，より科学技術に対する興味。・関心を高めるよう努める。

学　校　自　己　評　価								
年　度　目　標					年　度　評　価（３　月　１　日 現在　）			
番号	重点課題	重点目標	活動計画	活動の評価指標（目標値）	評価指標の達成状況	総合評価	効果と検証	次年度への課題と改善策
3	人権教育 ①　基本的人権を尊重し，自他を大切にし，地域社会や国際社会に貢献できる人間を育成する。	①　人権尊重の精神の涵養が図られるよう，教育活動全体の中で，人権教育を推進する。 （進路部・人権教育課）	①　ホームルーム年間計画で学習を予定した個別人権課題に対応する外部講師による人権教育講演会，また演劇鑑賞会を実施し，生徒の人権尊重の精神の涵養を図る。 ②　家庭・地域への積極的な啓発に努め，学校・家庭・地域が一体となって展開する人権教育活動を充実させる。	①－１　学校評価（生徒）人権教育に積極的に取り組んでいる。「そう思う」が昨年より５％アップ。 ①－２　人権教育講演会アンケートで人権問題について「大変深まった」・「概ね深まった」が 50％以上。 ② 学校評価（保護者）人権教育に積極的に取り組んでいる。「そう思う」が昨年より５％アップ。	（評価指標による達成度） ①－１　８％減（41％） ①－２　87％ ②　　27％増（49％） （活動計画の実施状況） ①－１　昨年より減少し目標達成できなかった。 ①－２　目標達成できた。 ②　　大幅に増加した。	（達成度） B （所見） 生徒の評価は減少したが，講演会の評価や保護者の評価は増加した。	人権教育講演会後のアンケートで人権問題についての理解が深まったと回答した生徒が大多数ではあるが，「全く深まらなかった」との生徒もいたことから講演会の内容等，再検討が必要である。 保護者に講演会の案内をすることで各会５名程度ではあるが参加を頂き人権啓発の機会となった。	人権問題についての理解を深めるために，ホームルーム年間計画とかぎまる人権 Day の運用について改めて検討する。 演劇鑑賞は生徒の心に響くものがあり，人権啓発として有効だった。同窓会より補助を頂き実施できたので継続してもらいたい。 保護者への人権啓発のため校内講演会の案内を継続する。
4		②　安心して楽しく学べる学習環境の整備に努め，豊かな人間性を育成し，主体的に学んだことを行動に結びつけることのできるスキルを養う。 （進路部・人権教育課）	①　人権委員を中心として，教室や廊下などの美化を行い学習環境の整備に積極的に努める。 ②　人権問題研究会（部活動）を活発に行う。中・高生による人権交流集会に参加し，その内容を学校全体に伝え人権意識の高揚を図る。	①　みちぴか・カベぴか活動を年９回行う。 ②　中・高生による人権交流事業生徒部会に延べ 15 人以上参加する。	（評価指標による達成度） ①　８回 ②　21 人 （活動計画の実施状況） ①　10/15 中間考査前のため実施しなかった。 ②　全体生徒部に３回・中部ブロック生徒部会に７回参加した。	（達成度） A （所見） 計画通り実施できた。	生徒が主体的に活動する機会を増やしたため，人権委員や人権問題研究部員を中心に生徒が積極的に活動に取り組むことができた。このことにより参加した生徒の人権意識を高めることができた。	生徒の校内で活動の場が増えるよう，人権新聞発行など人権委員会や人権問題研究部の取組をさらに充実させる。
5		③　生徒一人一人の居場所があり，安心して過ごせル場所であると実感できるホームルームや学校全体の雰囲気作りを行う。 （進路部・人権教育課）	①　教職員一人一人が豊かな人権意識を身につけ，人権感覚を磨くことができるよう校外研修の案内を積極的に行う ②　ホームルーム活動（人権）において，人権委員が活動への積極的な参加を促すとともに，活動の記録を記入する。 ③　かぎまる人権 day に人権委員が挨拶運動を行い，生徒の人権意識の高揚を図る。 ④　人権意識調査やインターネット意識調査，人権教育講演会アンケートを実施し，生徒の人権意識の変容を確かめる。	①　学校評価（教職員）人権教育に積極的に取り組んでいる。「そう思う」が昨年より 10％アップ。 ② ホームルームでの取組の様子を人権委員が客観的に評価した値が３以上（４点満点）を目指す。 ③　人権委員による挨拶運動を年５回実施する。 ④　調査やアンケートを年６回行う。	（評価指標による達成度） ①　３％増（40％→ 43％） ②　平均 3.6 １年 3.6，２年 3.5，３年 3.7 ③　５回実施 ④　アンケート３回，感想３回計６回実施 （活動計画の実施状況） ①　達成できなかった。 ②　目標達成できた。 ③　目標達成できた。 ④　アンケート３回を感想３回に変更した。	（達成度） B （所見） ほぼ達成，実施できた。 ④講演会後のアンケートは３年のみ実施し，他学年と劇は感想に変更した。	市村人研大会が開催されため教職員の校内で研修の機会を多くとることができた。 ホームルーム活動の記録を人権委員が記入することで，その時間の学習の振り返りや，ホームルーム全体の取り組む姿勢を客観的に見ることができた。 かぎまる人権 Day の挨拶運動も２年目となり定着し，各学年ともほぼ全員参加で実施でき，生徒の人権意識を高めることができた。	教職員の人権感覚を磨くため学年別研修の持ち方を検討する。校外研修にも参加できるよう案内を継続したい。 人権委員による挨拶運動とホームルーム活動の記録の記入を継続し，委員の自覚と人権意識の高揚を図る。

学　校　自　己　評　価								
年　度　目　標					年　度　評　価（３　月　１　日 現在　）			
番号	重点課題	重点目標	活動計画	活動の評価指標（目標値）	評価指標の達成状況	総合評価	効果と検証	次年度への課題と改善策
6	学習指導 ①　課題学習の工夫や個別指導を充実させることにより，生徒の個性を伸ばし，主体的に取り組むとともに他者と協働する態度を養う。	①　基礎・基本の定着を図り，それを活用した実践的な知識や技能を身につけさせる。 （教務部・教務課）	①　学びの基礎診断認定ツールであるスタディーサポートを活用し，分析会を開き，生徒の実態把握に努める。その分析結果を基に，各教科ごとに課題を見極め，その課題を解決するために，教員の具体的な取組を定め実行する。	①－１　スタディーサポート実施教科については分析結果を基に校内学力向上のための実行プランを作成する。 ①－２　校内学力向上のための実行プランの最終評価値の平均 3.2 以上を目指す。	（評価指標による達成度） 校内学力向上のための実行プランの最終評価値平均が 3.16 であり，目標まであと 0.04 足りなかった。 （活動計画の実施状況） スタディーサポートの分析結果を基に作成した校内学力向上のための実行プランを作成し実行した。	（達成度） B （所見） スタディーサポートの分析結果を基に作成した校内学力向上のための実行プランにより PDCA サイクルを意識した活動により目標を達成できた。	①　校内学力向上のための実行プランの PDCA サイクルを意識した活動により，目標を達成できた。しかし，生徒の授業に対する評価において教員の授業中の対応が昨年度より-1.18%とダウンしている。	①　生徒の授業に対する評価において教員の授業中の対応が昨年度より-1.18%とダウンしていることからも，普段の授業から生徒の実態把握に努め，課題を見極め，適切に対応していく必要がある。
7	②　社会的・職業的自立に必要な知識・技術・技能・態度を身に	②　普段の授業から，思考力・判断力・表現力を養い，主体的に学習に取り組む態度を身につけさせ	②　教育活動の中で，生徒の実態に応じて，アクティブラーニングなどの手法を用い，気づき・発見，考え，まとめ，伝えることを通し	②－１　今年度授業評価における理解度のポイント数を昨年度の 0.1 ％アップを目指す。	（評価指標による達成度） ②－１　授業評価における自己評価では１・３年生が特に頑張った結果，理解度が	（達成度） B （所見）	②　生徒の授業に対する評価において主体的な活動が昨年度より-3.40%とダウンしていることからも，	②　今後もアクティブラーニングの手法を積極的に活用し，時には授業に変化を付けるなど，生徒の

	つけ,社会の変化に対応でき，地域社会や産業界に貢献し得る実践的な技術者を育成する。	る。 （教務部・教務課）	て他者と協働しながら主体的に学習する力を養成する。	②－２　今年度授業評価における主体性（授業準備，授業態度，興味関心）のポイント数を昨年度の 0.3 %アップを目指す。	1.65%と大幅にアップした。 ②－２　授業評価における主体性（授業準備，授業態度，興味関心）が-1.69%と大幅にダウンした。 （活動計画の実施状況） アクティブラーニングの手法を用いた授業を積極的に実施し，主体的・対話的で深い学びを実践した。	アクティブラーニングの手法を用いた授業を積極的に実施し，理解度がアップしたものの主体性がダウンした。	アクティブラーニングの手法を用いた授業が効果を上げていないか，変化に乏しい授業になってしまっている可能性がある。	主体性を養う工夫が必要である。
		③　将来を見据えた望ましい職業観を育成し，主体的・協働的に学習する態度を育てる。 （教務部・教務課）	③　類での専門教育や職業内容の研究を通して，将来の就職等への具体的目標を持ち，その達成のために主体的に学習に取り組む態度を育てる。 また，実験・実習において他者と協働した学習活動を通して人間関係形成・社会形成能力を育てる。	③－１　今年度授業評価における自己評価のポイント数を，昨年度の 0.3 %アップを目指す。 ③－２　今年度授業評価における試験勉強と授業の積極性のポイント数を，昨年度の 0.1 %アップを目指す。	（評価指標による達成度） ③－１　授業評価における自己評価では-1.77%と大幅にダウンした。 ③－２　授業評価における自己評価では試験勉強と授業の積極性が 0.85%とアップした。 （活動計画の実施状況） 進路関係のホームルームを通して望ましい職業観を育成するとともに，実験・実習において協動的に活動できた。	（達成度） B （所見） 授業評価における自己評価はダウンしたが，試験勉強と実習などの積極性はアップした。	③　授業評価における自己評価がダウンしているが，試験勉強と実習などの積極性がアップしていることからも，他者と協働した学習活動が実践できている。	③　授業評価における自己評価がダウンしているだけでなく，生徒の授業に対する評価についても-1.45%とダウンしていることから，更なる授業改善により自己評価のアップへ繋げていく。
8		④　読書の奨励を図り，基礎学力の向上と生涯にわたり学び続ける能力を育てる。 （教務部・教育情報課）	④　図書館の積極的な活用を図り，読書の奨励を行う。	④　図書貸出数が月間 300 冊以上を目指す。	（評価指標による達成度） ④　平均月間貸出数 282 冊 （活動計画の実施状況） 新入生オリエンテーション。 図書館だより発行。(10 回) コース別推薦図書リスト作成。（４種） 図書展示・読書推進イベント。 県立図書館との連携。 読書感想文課題の実施。 各種コンクール応募案内。 図書委員会活動として推薦図書リスト作成。（2回） 文化祭展示。	（達成度） B （所見） 月間貸出冊数は，目標値に少し届かなかった。	④　新入生オリエンテーションや，広報・展示・イベントを通じて図書館利用を働きかけたが，貸出数に繋がらなかった。 図書委員会活動については，推薦図書ＰＯＰ作成等の課題には取り組めたが，自主的な活動に繋げることができなかった。	④　クラスによって貸出数に差があり，全体に読書習慣を身につけさせるためには，担任等と連携し粘り強く働きかける必要がある。また，図書委員会活動の活性化も必要である。

学　校　自　己　評　価

年度目標					年度評価（３月１日現在）			
番号	重点課題	重点目標	活動計画	活動の評価指標（目標値）	評価指標の達成状況	総合評価	効果と検証	次年度への課題と改善策
9	生徒指導 ①　基本的生活習慣を身につけさせる。遅刻者数を減少させる。最低限昨年度の数値を維持する。また，家庭との連携を密にする。	①　基本的生活習慣の確立を図り，時と場にふさわしい礼儀・あいさつ・言葉遣いを身につけさせるとともに，遅刻回数の減少から規則正しい生活リズムを構築させる。 （指導部・生徒課）	①　遅刻カードを用いた遅刻指導を徹底する。家庭との連携により，規則正しい生活習慣を身につけさせる。 ②　外来者へのあいさつを徹底する。また，集会時において，８Ｓの一つである「躾」を徹底する。 ③　問題行動の未然防止に努める。	①　月間登校時遅刻率を 1.0 %未満とする。（１日当たり 9.0 人） ②　毎月５日間程度，コース長や学年主任(学年副主任)，当日日直，生徒課員で正門における登校時身だしなみ指導を実施する。 ③－１　毎時の休憩時間において輪番制による校内巡視を実施し，各教室の施錠および生徒の生活状況を確認し防犯等に努める。 ③－２ ＨＲ担任と日直が連携し，放課後の教室施錠を徹底する。	（評価指標による達成度） ①　１日の遅刻者平均は，4.0 人で 0.46 %であった。 ②　毎月初めに５日間実施し，登下校時身だしなみ指導を類・コース長，学年主任で行った。 ③　各授業開始直後や放課後に各教室の施錠確認及び校内巡視を実施した。また，昼休み時間は，校内の主要な門において巡視も行った。 （活動計画の実施状況） ①　計画通り実施できた。 ②　担当教員と連携し計画通り実施できた。 ③　担当教員と連携し計画通り実施できた。	（達成度） B （所見） 計画通り実施できた。	①　数値的には目標達成することができた。一昨年度を遅刻数は下回ったものの，昨年の遅刻数を上回った。悪天候による影響が例年より多くあったと考えられる。 ②　登下校時の身だしなみは正せたものの，校内における服装の乱れが若干目立った。 ③　各クラスの施錠状況は良かったものの，生徒自らが責任をもって貴重品などを管理する指導が必要となった。	①　１日の遅刻者平均を本年度同様，1.0 %未満（１日当たり 9.0 人）とし，本年度以上の数値を目標とする。 ②　本年度通り実施し，下校時まで身だしなみが維持できるよう，教職員が連携し注意喚起する。 ③　本年度通り巡視態勢を継続し実施する。生徒の所持品については自他の区別を明確にし，自らが責任をもって管理できるよう，様々な場面を捉え指導していく。
10	②　遵法精神の涵養と意識の高揚と知識の定着を図る。また，全教職員が温度差の	②　定期的に規律指導を行い，ルール遵守から集団生活の規律向上に努める。自ら率先して考え，判断・行動のできる能力を育てる一助とする。	①　一人一人が充実した学校生活を送る中で，自分を大切にすることが他人を思いやることにつながることを気づかせる。 ②　喫煙・飲酒・薬物乱用防止に対する講話，携帯電話・スマートフ	①　規律指導を毎月初めに実施し，指導を徹底する。各回とも違反者については，一定期間内で完全に直させる。 ②　喫煙・飲酒・薬物乱用防	（評価指標による達成度） ①　規律指導に抵触した生徒は少なくなった。一部で軽微な違反が見られたものの，期日内に改善することができた。	（達成度） A （所見） 計画通り実施できた。	①　規律指導以外において，男子の頭髪・シャツ出し，女子の化粧・スカートの巻き上げが目立った。 ②　各講演等を真剣に聞くことができ，学校生活や	①　規律指導カードを迅速に集計し，それを活用した指導体制を整える。また，担任を通した保護者との連携を密にし，軽微な違反を見逃さない指導

	ない指導が行えるようにする。	（指導部・生徒課）	ォン（ＷＥＢ関係を含む）安全教室，制服を美しく着こなすセミナーを実施することで，心の躾を向上させる一助とする。	止に対する講話やゲーム依存ネット障害や携帯電話（ＷＥＢ関係を含む）安全教室，制服を美しく着こなすセミナーを開催し，生徒の意識高揚と知識の定着を図る。	②　意識の高揚と知識の定着が見られた。 （活動計画の実施状況） ①　計画通り実施できた。 ②　計画通り実施できた。		家庭生活に活かす一助となった。	を実践していく。 ②　本年度通り実施する。より一層の意識の高揚と知識の定着を望める講演を計画していく。
11	③　交通道徳を遵守させ，登下校時の交通安全指導を徹底させる。	③　「学校安全の日」，「交通マナーアップクラブ」及び所轄警察署の指導等を通して，交通安全教育の一層の徹底を図る。 （指導部・生徒課）	①　毎月 20 日を「学校安全の日」とし，教職員や保護者，生徒課員が連携して，通学時に混雑が予想される場所において登校指導を行う。 ②　自転車点検や駐輪場での施錠確認，駐輪状態確認を行う。交通安全教育を充実し，道路交通法を遵守させる。 ③　生徒を主体とした交通マナーアップ運動の推進を図る。	①　年間を通して，日直と生徒課員が，正門を含む学校近隣において，登下校指導を行う。特に，毎月 20 日には，輪番制で各学年ＰＴＡ役員と教職員が共同で登校指導を行う。 ②　年間５回の自転車点検を実施する。駐輪場における自転車施錠の習慣と駐輪状態の整理整頓を身につけさせる。傘差し運転の禁止と雨合羽着用の指導を繰り返し行う。 ③　生徒会や交通委員によるあいさつ運動と生活委員による駐輪場の整理・整頓などを行う。	（評価指標による達成度） ①　登下校指導をはじめ，毎月 20 日に行う交通安全指導を多くの教職員の協力を得て実施できた。 ②　年間５回の自転車点検に加え，１学年は自転車安全整備士による訪問点検を実施できた。また，年間で自転車事故の多い中間考査最終日に交通安全教室を実施し，交通マナー等について周知することができた。 ③　生徒会や各種委員と連携した取組を行うことができた。特に，万一事故が起こってもあわてずに対応できるよう，事故状況メモのカードを全生徒に携帯させた。 （活動計画の実施状況） ①　概ね実施できた。 ②　計画通り実施できた。 ③　計画通り実施できた。	（達成度） Ｂ （所見） 計画通り実施できた。	①②　これまでの登下校指導や交通安全指導などにより，歩行者や近隣住民の方々からお褒めの言葉を頂けるようになってきた。思考を凝らした交通安全教室や自転車点検を行うことができた。 ③　交通委員と広沢自動車学校が連携し，次年度の交通安全教室で使用する教材づくりをスタートさせた。	①②③　登下校指導を全教職員が協力し，実践できる指導体制を確立していく。また，駐輪場における自転車の施錠・整理整頓，交通マナーの向上を各種委員会と連携するなか強化していく。引き続き万一事故が起こってもあわてずに対応できるよう，事故状況メモのカードを全生徒に携帯させ，自転車事故減少に努めていく。
12	④　生徒が安全で安心して生活できる教育環境を整え，自己実現の一助とする。	④　教育活動全体を通して，全生徒に「いじめは絶対に許されないこと」との理解を促し，心の通う人間関係を構築する能力の素地を養う。 （指導部・生徒課）	①　定期的に校内巡視を行い，いじめの未然防止に努める。またいじめ・体罰被害アンケート調査を各学期末に実施する。	①　各学期末に，年合計３回のいじめ・体罰被害アンケート調査を実施する。また毎時休憩時間に輪番制による校内巡視を実施し，生徒の生活状況を確認する。	（評価指標による達成度） ①　年間行事の各学期末に，ＨＲを設定しいじめ・体罰被害アンケート調査を実施した。 （活動計画の実施状況） ①　計画通り実施できた。	（達成度） Ｂ （所見） 計画通り実施できた。	①　アンケート調査結果から迅速に対応し，生徒からの相談，悩みに対して組織的に対応し解決の糸口となった。	①　本年度通り実施する。常に「いじめは絶対に許さない」という強い信念を持ち，些細な生徒からのシグナルを見落とさないように心掛けておく。

学　校　自　己　評　価								
年　度　目　標					年　度　評　価（３月１日現在）			
番号	重点課題	重点目標	活動計画	活動の評価指標（目標値）	評価指標の達成状況	総合評価	効果と検証	次年度への課題と改善策
13	進路指導 ①　将来を見据えた望ましい職業観・勤労観の育成と，生徒一人一人に対応した柔軟な進路指導を展開する。 ②　求人企業の確保と進学に向けての適切な指導を行う。 ③　進路達成に向けて学習指導の充実を図る。	①　進路への興味・関心を喚起し，将来を見据えた望ましい職業観・勤労観を養う。 （進路部・就職課・進学課）	①　ＨＲへ各種進路情報を提供する。（模試・ガイダンス・推薦・求人・工場見学等）	①　ＨＲへの情報の提供 満足度 80 %以上。	（評価指標による達成度） ①　本年度の学校評価アンケートの結果から生徒 83 %，保護者 85 %の満足度が得られた。 （活動計画の実施状況） ①　必要に応じ随時実施した。	（達成度） Ａ （所見） ①　概ね達成できた。	①　情報提供を行う中で，情報の共有ができ，生徒の進路実現に対する意識の向上及び生徒自らが考えるきっかけができた。	①　進路実現に対する生徒の意識をさらに向上させるために，オープンキャンパスや工場見学への参加の機会を増やす。そのために，適切に生徒への情報の提供を適宜行う必要がある。
14		②　生徒一人一人の能力・適性，興味・関心に対応した組織的･継続的な進路指導を展開する。 （進路部・就職課・進学課）	②　生徒一人一人の理解を深めるために個人面談や三者面談を実施する。また，生徒の希望や能力に応じた進路希望を実現するため，進学・就職補習および進路相談を充実させる。	②　適性・希望に対応した進路指導に対する満足度 80 %以上。	（評価指標による達成度） ①②　本年度の学校評価保護者アンケート結果から 81 %の満足度が得られた。 （活動計画の実施状況） ①　個人面談は各担任及びコース長により４月から継続的に実施できた。 アンケート調査は，３年生で４月～７月の４回，１・２年生で９月と１月の２回実施した。 ②　補習は，年間計画通りにほぼ実施できた。	（達成度） Ｂ （所見） ①　個人面談は各クラスで十分実施できた。 ②　補習は年間計画通りに実施できた。	①　９月に面談週間を設け夏休み明けからスムーズに学校生活入ることができた。 ②　早朝の進学補習の出席確認を定期考査ごとに行い，出席を徹底したことで技術類の出席率が向上した。また夏休みに特別補習を実施し，進学希望者への継続的な指導を行った。よって国公立大ＡＯ入試においては 44 %の合格率であり，推薦入試とあわせても 71.5 %の合格率であった。 求人数が大幅に増加し	①　９月に面談週間を設けたことによって落ち着いて学習に取り組める環境が整った。次年度も継続して行事の中に入れていく。 ②　３年生の放課後補習は６月総体開けから実施していたが，会議等もあり十分に行えなかった。次年度は９月からの実施としたい。 技術系の進学希望者が大幅に増え，対応する教室の確保が困難であった。今年度新多目的ホールができ，このホールを

							たこともあるが，４月の段階から生徒の意識を高めることにより10月中に就職内定率 100%を達成することができた。	進学補習に活用していく。 入社３年以内に退職する生徒がみられるため，企業情報の提供を密に行い，生徒と企業とのミスマッチを減らす取組が必要である。
15		③　ＩＣＴを利用して，生徒の学校や家庭での生活を把握し,改善に努める。 （進路部・就職課・進学課）	③　ＩＣＴを利用して，学習記録や考査等のテスト成績を記録し，ＨＲ担任と生徒・保護者との面談の資料として活用し，主体的な取組が行えるように促す。	③　科学系の平日の家庭学習時間を２時間以上，休日の家庭学習時間を３時間以上。	（評価指標による達成度） ①　概ね達成できているが，主体性をもっての取組においてはまだまだ改善の余地がある。 （活動計画の実施状況） ①　必要に応じ随時実施した。	（達成度） A （所見） ①　概ね達成できた。	①　ＩＣＴの活用は便利であるが，一方ではＨＲ担任の負担を増やすことになっている。担任だけでなく教科の側からのバックアップや生徒の主体的な取組につながるような活動が必要である。	①　やらされる学習より自分で目的をもって主体的に学習に取り組めるような仕掛けを考え，将来の深い学びにつなげられるような課題の出し方を検討する。
16		④　進路ガイダンスや講演会等を通して，キャリア教育の充実を図り，社会人として自立できる資質や自ら進路を決定できる能力を養う。 （進路部・就職課・進学課）	④　生徒の希望に添ったガイダンスを各学年にて実施する。また，進路講演会等により，勤労観，職業観を養い，職業に対する意識の高揚を図る。	①　進路ガイダンス実施後 満足度　80 %以上。 進路講演会等実施後 満足度　80 %以上。	（評価指標による達成度） ①　実施後のアンケートで概ね生徒からも好評であった。 ②　実施後のアンケートで概ね生徒からも好評であった。 （活動計画の実施状況） ①　大学の先生や進学情報会社の講師を招き，実施できた。 ②　企業の社長や本校の卒業生を講師に招き，実施できた。 （活動計画の実施状況） ①②　計画通り実施できた。	（達成度） A （所見） ①　進路ガイダンスは計画通りに実施できた。 ②　進路講演会は必要に応じて講師を招聘して実施できた。	①②　ガイダンスや講演会は学校外部の方々からの講話を聞くことができるよい機会である。ガイダンスで各分野ごとの説明を聞いたり，講演会では企業で活躍する卒業生からの貴重な経験を聞けたことは将来の目標を考える上で貴重なものとなった。	①②　最新の情報や話題は生徒にとっても魅力的に感じており，進路意識の醸成につながっていた。また小論文講演会や模試を実施することで文章を読んだり書いたりすることの必要性を感じる良いきっかけとなった。 卒業生を招いての講演会を，今年度も全クラスで実施することができた。次年度もできる限り多くのクラスで実施する必要がある。

学　校　自　己　評　価								
年　度　目　標					年　度　評　価（３　月　１　日 現在 ）			
番号	重点課題	重点目標	活動計画	活動の評価指標（目標値）	評価指標の達成状況	総合評価	効果と検証	次年度への課題と改善策
17	教育相談・特別支援教育 ①　相談・支援活動を充実させる。	①　生徒の変化を見逃さない。 （指導部・教育相談課）	①　生徒の出席状況の把握と支援の検討。 ②　専門機関との連携。	①　欠席の続く生徒に関して適切な対応を検討する。 ②　必要に応じて専門機関との連携を図る。	（評価指標による達成度） 概ね達成できた。 （活動計画の実施状況） ①　欠席状況を把握し，関係する教員と連携することができた。 ②－１　専門機関へ相談を行い，指導を受けることができた。 ②－２　常勤スクールカウンセラーを活用できた。	（達成度） B （所見） ほぼ計画通りにできた。	①　学校と保護者，カウンセラーが情報共有のもと対応にあたり，良い効果を得たケースがあった。数名進路変更の決定が早く，対応し切れないケースもあった。 ②　専門的な指導を受け，教育活動に生かすことができた。	引き続き，生徒の欠席状況や保健室利用状況を把握することで，早期に生徒の問題を見つけ，スクールカウンセラー等を活用した対応をする。
18		②　相談活動を充実させる。 （指導部・教育相談課）	①　教育相談室の放課後利用。 ②　相談事業の広報。	①－１　放課後に相談室を開室する。スクールカウンセラーを活用した教育相談室の利用を図る。 ②　「ほっとだより」を各学期１回以上発行する。	（評価指標による達成度） 概ね実施できた。 （活動計画の実施状況） ①－１　スクールカウンセラーが放課後の相談に対応し，相談活動ができた。 ①－２　スクールカウンセラーが１年生全員に面談を実施し，予防教育ができた。 ②　「ほっとだより」を計画通り発行できた。	（達成度） B （所見） ほぼ計画通りにできた。	①－１　スクールカウンセラー，特別支援教育コーディネーター，養護教諭のミーティングを開催し，情報共有に努めた。 ①－２　カウンセリングについて理解が深まった。 ②　「ほっとだより」は，教育相談を推進する上で大切な役割を持つため，各学期テーマを変えて心に関する認知を高める内容作りに努めた。	①　ミーティングの回数を増やす。 ②　引き続き「ほっとだより」を発行する。
19		③　学校全体での支援体制の充実を図る。 （指導部・教育相談課）	①　校内研修会の開催。	①　校内研修会やワークショックを年１回以上開催する。	（評価指標による達成度） 各１回ずつ開催できた。 （活動計画の実施状況） ①　全体研修会「配慮の必要な生徒の理解」,希望者に「脳	（達成度） A （所見） ほぼ計画通りに	①　全体研修会を行うことで教職員共通の意識改革ができた。 ワークショックでは，すぐに生徒への対応に活	引き続き，その年度の生徒の必要性に応じた内容の研修会を開催する。

					の仕組みと言葉の使い方」のワークショップを行った。	できた。	用できる内容で，教育活動にいかすことができた。	
20	環境教育 ①　各クラスの環境整美委員を中心に，ＨＲ担任や清掃分担の教員の協力のもと日頃の清掃指導の徹底を行う。	①　日々の清掃活動の充実を図り，美しい環境が整った学校づくりに努め，次に使う人の立場に立った「いつもきれいに清掃で心を磨く科技高生」の実践を行う。 （特活部・環境教育課）	①　校内美化週間期間中，環境整美委員を中心に清掃の徹底，ゴミ分別の徹底，ロッカー・掲示物の整理整頓等丁寧に行う。 ②　学校行事（体育祭，文化祭）などの際に発生する，ゴミ問題について，環境整美委員会を中心とした環境美化に関するモラルやマナー「マナーを守り，自分のゴミは持ち帰る。」の啓発活動を行う。	①　日頃の清掃，ゴミの分別の徹底，ロッカー・掲示物の整理整頓がなされたか。 ②　校内への泥汚れ侵入禁止。 ③　学校行事（体育祭，文化祭）などの際，環境美化やゴミ問題に対するモラルやマナーが守れたか。	（評価指標による達成度） ①　日頃の清掃状況について －１　毎日清掃が良くできた。　87％ －２　ゴミ分別が良くできた。　82％ －３　掲示物，ロッカーの整理整頓が良くできた。　81％ ②　トイレの使用状況が多少悪化しているように思う。 ③　学校行事について －１　体育祭でのモラルやマナーが守られた。　81％ －２　文化祭でのゴミ分別は守られた。　91％ （活動計画の実施状況） ①　各クラスの環境整美委員を中心にＨＲ担任の指導のもと清掃の徹底・ゴミ分別の徹底によく取り組んだ。 ②　学校行事について 環境整美委員は，体育祭，文化祭共清掃や啓発活動を率先して頑張った。	（達成度） B （所見） 評価指標関係について，多少改善しなくてはいけない。 ①　清掃の徹底・掲示物・ロッカーの整理整頓に多少の改善点が必要である。 ②　毎日のトイレ清掃は，概ね達成できた。 ③　体育祭のモラルやマナーが多少改善したように思う。 文化祭については，多少改善しなくてはいけない。	①－１　日頃の清掃活動について 「清掃が大変良くできた。」「よくできた。」含め 87％ 「多少改善点がある」　13％ 多少改善しなくてはいけない。 ①－２　ゴミ分別について 「ゴミ分別が大変良くできた。」「よくできた。」含め　82％ 「多少改善点がある。」　18％ 今後もゴミ分別に対する意識の高揚に取り組まなくてはいけない。 ①－３　掲示物，ロッカーの整理整頓 「掲示物，ロッカーの整理整頓が大変良くできた。」「よくできた。」含め　81％ 「多少改善点がある。」　19％ ロッカーの上が散らかっていて改善点が多い。 ②　学校行事について －１　文化祭 「校内でのゴミ散乱が少しあった。」「あった。」含め　24％ 「模擬店でのゴミの分別多少改善点がある。」「改善点がある」含め　９％ －２体育祭 「競技場内でのゴミ散乱が少しあった。」「あった。」含め　24％ 「マナーを守り，各自のゴミは，持ち帰る。」「多少改善点があった。」「改善点があった。」含め　18％ 文化祭では，入場者や生徒たちへのマナーやモラルの高揚を行わなくてはならない。 体育祭ではゴミゼロの啓発活動を通じて，ゴミの散乱状況が改善されたが，ゴミを出さない工夫も必要である。引き続き啓発活動を続けていく必要がある。 ③　環境整美委員会を年間５回実施し，係活動では概ね良くできた。	①　各クラスの環境整美委員会を中心にＨＲ担任や清掃分担の教員の協力のもと指導の徹底を行う。また，アンケート調査等で清掃分担場所の清掃状況を把握し，環境美化週間等に反映していきたい。 ②　学校行事の体育祭では実施場所が変わったこともあり，例年以上に啓発活動を実施していかなくてはならない。文化祭では，来校者のマナー向上の啓発活動が課題である。 ③　環境整美委員会は随時開催していきたい。
21	防災教育 ①　防災委員，防災クラブの活動をベースとして，災害時に命を失わない，役に立つ心を育成する。	①　地域と共に防災活動を行い,社会の一員として,求められている防災マインドを育てる。 ②　災害時を含め，社会で主体的に動ける心を育てる。 （防災教育）	①　地域と共催の防災訓練を企画，実行する。 ②　災害時に必要な器具等を使う訓練を日常から行う。	①　２カ所以上の他団体と共催し 200 名以上の参加を目指す。 ②　炊き出し訓練や日頃の準備として，効率面，衛生面，実用面などを考慮した器具等を選別，使用出来ることを目指す。	（評価指標による達成度） ①　年２回の防災避難訓練では，延べ 310 名の地域住民・施設利用者が参加した。 ②　衛生面や効率等については，昨年と変わらない状況である。器具等も昨年のものを使用した。 （活動計画の実施状況）	（達成度） B （所見） ①　避難訓練の参加者は目標を満たすことができた。 ②　炊き出し訓練	①　生徒や教職員に本校が地域防災の拠点として，役割や責任を担う意識がついてきた。 ②　地域住民から，今後も炊き出し訓練を継続してほしいなど，要望が寄せられた。	①②　さらに避難訓練の参加者が多くなるよう，学校のホームページや地域の回覧板を利用して，広報活動を充実させる必要がある。

					①②　炊き出し訓練では，地域住民と本校職員を対象に防災食の試食会を実施した。	も防災食の紹介や試食を実施するなど，充実したものにできた。		

学　校　自　己　評　価								
年　度　目　標					年　度　評　価（　３　月　１　日 現在　）			
番号	重点課題	重点目標	活動計画	活動の評価指標（目標値）	評価指標の達成状況	総合評価	効果と検証	次年度への課題と改善策
22	保健安全教育 ①　保健安全に関する指導・情報提供を行う。 ②　生徒保健厚生委員会による環境整備・安全点検を行う。	①生涯を通して,健康で活力がある生活を送るために，健康の保持増進に関する指導の充実を図る。 （特活部・保健厚生課）	①　定期健康診断や保健だよりの発行等により健康に関する情報提供を行う。 ②　生徒保健厚生委員を中心に，教室内の環境整備・安全点検，ＡＥＤの定期点検等を実施する。 ③　学校行事における保健安全活動を充実させる。 （特活部・保健厚生課）	①－１　定期健康診断受診率 100 %。 ①－２　保健だよりの発行。（月１回） ②－１　生徒保健厚生委員会活動。（月２回） ③－１　ＨＲ活動等における保健講演会の開催（年１回） ③－２　文化祭における保健展を開催する。 ③－３　学校献血の実施。（年３回）	（評価指標による達成度） ①－１　定期健康診断受診率 100 % ①－２　保健だよりを月１回発行。 ②－１　生徒保健厚生委員会活動を月平均３～４回実施。 ③－１　歯科講演会（１年），献血セミナー（３年）の開催。（年２回） ③－２　文化祭における歯科保健展の開催 ③－３　学校献血を年２回実施。 （活動計画の実施状況） ①－１　未受診者に対して定期健康診断の意義を繰り返し説明し，学校医・歯科医の協力により，受診率を 100 %にすることができた。（長期欠席者を除く） ①－２　保健だよりを月１回，特別号を年２回発行した。 ②－１　安全点検だけではなく，定期健康診断や文化祭保健展，感染症予防等，様々な機会を捉えた活動ができた。 ③－１　専門家を招いて，歯科講演会，献血セミナーを開催できた。 ③－２　学校歯科医等の協力により，文化祭での歯科保健展を開催し，たくさんの来場者があった。 ③－３　学校献血は学校行事の関係で年２回しか実施できなかったが，生徒・教職員が献血に協力することができた。	（達成度） B （所見） ①から③にかけての計画は，概ね計画通りだった。 ③－３については，血液センターや学校行事との調整がうまくできなかったため，３回実施予定のところ２回の開催にとどまった。年度当初から計画的に進めていく必要がある。	①－１　未受診生徒に対し定期健康診断の意義を繰り返し説明し，学校医・歯科医の協力により，受診率を 100 %にすることができた。 ①－２　保健だよりだけではなく，健康診断や文化祭等の学校行事により，機会を捉えた情報提供が行えた。 ②　生徒保健厚生委員会活動により，定期健康診断の準備・片付けや，文化祭保健展の活動，学校内の環境整備・安全点検等が行えた。 ③－１　専門家を招いて歯科講演会，献血セミナーを開催することで，健康・安全に関する関心が高まった。 ③－２　文化祭での歯科保健展を開催することで，歯科保健についての情報提供を行えた。 ③－３　学校献血を年２回実施することで，献血の意義と献血の現状を理解でき，献血を身近なものとして捉えることができるようになった。	①－１　定期健康診断の重要性・必要性を伝え，次年度も受診率 100 %をめざすとともに，二次検査（精密検査）の受診率の向上を図る。 ①－２　月毎の保健だより発行だけでなく，学校行事等の機会を捉えた保健指導により情報提供を行う。 ②　生徒保健厚生委員会活動，環境整備・安全点検の活動だけにとどめず，学校行事における保健活動で活躍できるような内容を検討する。さらに，保健活動のリーダーとなって活躍できる生徒の育成も目指したい。 ③－１・２・３　引き続き講演会や文化祭の保健展，献血推進活動を開催し，健康・安全に関する関心を高める。
23	特別活動 ①　特別活動への生徒の自主的な取組を充実させる。	①　生徒自ら率先して各種活動に取り組むことのできる学校行事，生徒会活動の充実に努め，集団活動を通してコミュニケーション能力の向上を図る。 （特活部・特別活動課）	①　生徒による集会時の司会進行，記録，挨拶を今以上に取り入れ，自主的に運営できるように指導する。 ②　文化祭・体育祭の内容の多様化・充実化を図り，生徒が意欲的に取り組む学校行事を目指す。 ③　みちピカ事業で周辺地域への清掃奉仕活動を行い，仲間と協力して活動ができる能力を身につける。	①　生徒総会，壮行会，予餞会を生徒が 100 %運営する。 ②　文化祭への生徒の満足度 90 %。 体育祭への生徒の満足度 85 %。 ③　みちピカ事業参加者 平均 70 名。	（評価指標による達成度） ①　生徒総会，壮行会，球技大会，予餞会は生徒が自主的に運営できた。 ②　文化祭への生徒の満足度 95 % 体育祭への生徒の満足度 94 % ③　みちピカ事業参加者 平均 108 名 （活動計画の実施状況） ①　生徒会執行部を中心に，主体的に活動できた。 ②　体育祭・文化祭ともに，クラスやコースで工夫が見られ，それぞれの特色が生かされた取組であった。	（達成度） A （所見） ①　各行事で生徒会が中心となって運営できた。 ②　文化祭・体育祭ともに目標の満足度を達成した。 ③　目標の参加者数を上回ることができた。	①　各行事で生徒の自主的な運営による活動が展開できた。 ②　体育祭ではコース対抗で１学年から３学年が協力して活動することで，縦のつながりが強化され，生徒の満足度も高まった。 文化祭は各コースによる企画で本校の特徴を生かした内容の充実を図った。 ③　みちピカ事業は６回の実施で，平均 96 名の参加があり，昨年度は下回った平均人数となったが目	①　生徒会役員会を定期的に開催し，生徒会の自主的運営を更に強化していきたい。 ②　文化祭の満足度は高いものの，本校の特徴を生かした企画を生徒会役員と共に考えていきたい。 体育祭は，生徒の希望を取り入れた新たな種目を取り入れていきたい。 ③　参加生徒に偏りが見られ，一部の者だけが活動しているので，様々な生徒が参加できる活動にしていきたい。

					③　６回の実施で，学校周辺の近隣を中心に丁寧な清掃を行った。		標は超えた。	
24	②　部活動の更なる活性化を図る。	②　部活動を充実・活性化させ，日々の活動を通して精神面，体力面での成長を図るとともに，団結心や協力心を育成する。 （特活部・特別活動課）	①　部紹介・体験入部を実施し，部活動の入部を促進する。 ②　部活動の活動内容や成績を積極的に広報し，生徒の意欲を高め，校内の共通理解・協力体制を強化する。	①　入部率 80 %以上。 ②　表彰伝達を毎月行う。	((評価指標による達成度) ①　入部率 100 % ②　表彰伝達を年間 12 回行った。 (活動計画の実施状況) ①　部活動紹介で，各部１年生の入部を呼びかけるとともに，部活動見学週間を設定し，活動場所等の案内を行った。 ②　予定通り実施できた。	(達成度) A (所見) ①　着実に入部率を高めることができた。 ②　部活動の活動内容や成績を積極的に広報できた。	①　各部・同好会の活発な取組が入部促進につながった。 ②　月１回，集会時に表彰伝達を行うことで運営の簡素化と時間短縮を実現した。他の部の活躍が刺激となり，各部好成績を残すことができた。	①　補習との両立を考え，更なる入部率の拡大に努める。 ②　様々な機会を利用して，部活動の活躍や取組を全校生徒に伝え，部活動の更なる活性化につなげる。

学　校　自　己　評　価								
年　度　目　標					年　度　評　価（　３　月　１　日 現在　）			
番号	重点課題	重点目標	活動計画	活動の評価指標（目標値）	評価指標の達成状況	総合評価	効果と検証	次年度への課題と改善策
25	工業・水産教育 ①　工業の基礎・基本を重視するとともに地域や産業界と連携した教育の在り方を模索し，社会の変化や産業界の動向に適切に対応し得る人材の育成を目指す。	①　工業・水産教育のそれぞれの特長を生かした教育を推進し，実験・実習や課題研究，インターンシップ等の体験的な教育活動を展開する。 （各類・コース）	・情報科学コース ①　オープンキャンパスや大学講義を受け大学との連携を密にするとともに，生徒の進路選択に役立てる。	・情報科学コース ①　大学と連携した講義やオープンキャンパスへの参加を年３回以上実施する。	・情報科学コース (評価指標による達成度) ①　大学訪問１校，研究所訪問２カ所実施。 課題研究で高大連携実施。 生徒満足度 3.8。 (活動計画の実施状況) 概ね予定通り実施できた。	・情報科学コース (達成度) B (所見) ①　概ね予定通り実施でき目標が達成できた。	・情報科学コース ①　新入生の進学への意識を高めることに役立った。未来 ICT 研究所や人と防災未来センターを見学することで将来の研究や大学進学への期待を持たせることができた。日程の折り合いがつかず１大学しか訪問できなかったことが残念である。	・情報科学コース ①　生徒の進学意識の高揚に効果があることから継続して取り組む。本年度は大学訪問が１校となったので，その数を増やすよう努力したい。また大学での模擬授業を受けられるように次年度の計画を早期に検討したい。
			・環境科学コース ①　オープンキャンパスや大学講義を受け大学との連携を密にするとともに，生徒の進路選択に役立てる。	・環境科学コース ①　大学と連携した講義やオープンキャンパスへの参加を年３回以上実施する。	・環境科学コース (評価指標による達成度) ①　２大学の訪問実施。 徳島大学より教員２名，院生等 14 名を招き「実験講座」を実施した。徳島大学主催「科学体験フェスティバル in 徳島」に 10 名が参加した。 (活動計画の実施状況) ①　ほぼ，計画通り実施できた。	・環境科学コース (達成度) A (所見) ①　ＳＳＨ事業を中心に，大学との連携がよく図られ概ね目標を達成することができた。	・環境科学コース ①　大学と連携を図ることによって，大学の先生や学生たちと直接話ができ，生徒が大学について知る良い機会となっている。このことによって生徒の進学に対する意欲も向上している。	・環境科学コース ①　次年度も継続して行いたい。大学とは，化学系の他にも連携を深め，より幅広い視野を持って取り組んでいきたい。
			・機械コース ①　工場見学において職場を見学する。また，インターンシップを通じて企業との連携を密にする。	・機械コース ①－１　大手企業の工場見学を全員に対して実施する。また，２年生の 30 %以上の生徒に対して，インターンシップを実施する。 ①－２　インターンシップ実施においては，生徒の希望する職場に応じた企業を斡旋する。	・機械コース (評価指標による達成度) ①　大手企業の工場見学を全員に対して実施した。 また，２年生の 37 %の生徒に対して，インターンシップを実施した。 (活動計画の実施状況) ①　ほぼ，計画通り実施できた。	・機械コース (達成度) A (所見) ①　インターンシップの参加割合が 12%増加し，企業見学の回数も増やし連携を密にした。	・機械コース ①　授業で学んだことが仕事でどのように活かされるのか知る良い機会となった。 また，インターンシップはキャリア教育を推進する上で非常に効果的であった。	・機械コース ①　工場見学は，生徒が在学中の３年間を通してバランス良く訪問先を決める必要がある。インターンシップはキャリア教育を推進する上で大きなウエートを占めるため生徒ができるだけ関心を持つよう工夫する。
			・生産システムコース ①　学習内容や就職先を勘案し，有意義な工場（職場）見学を行う。 ②　インターンシップを通じて技術者として生きることを体験する。参加については参加者の自主性を重んじることに重点を置く。	・生産システムコース ①　県内外企業の工場見学を全員に対して実施する。 ②　インターンシップは２年生で行う。	・生産システムコース (評価指標による達成度) ①　４月 24 日に生産システムコース２年生，３年生全員に対し実施できた。 ②　クラスの約 30 %の生徒に対して実施できた。 (活動計画の実施状況) ①　４月 24 日に生産システムコース２年生，３年生の全員で兵庫県の株式会社神戸	・生産ｼｽﾃﾑｺｰｽ (達成度) B (所見) ①　授業の内容に近い見学ができ，また生産現場を実際に見ることができて，有意義な工場見学となった。	・生産システムコース ①　授業で学習する内容に近い見学ができ，鉄鋼製品の生産現場を実際に見ることができて，有意義な工場見学となった。 ②　日頃学んでいることを実際にインターンシップで体験することによって，実習や授業の大切さを理解し，職業観や勤労観の育成につながったと考え	・生産システムコース ①　生徒の興味関心や先端技術に触れる機会等も勘案し，更に今後の産業の社会的展望を見据えた工場見学を考えていきたい。 ②　企業数，参加生徒数共に増やす努力をするとともに，生徒が希望する企業への依頼を増加させていきたい。

					製鋼所高砂製作所を見学した。 ②　６企業に，11 名の２年生がインターンシップに参加した。	②　生徒の職業観や勤労観の育成と進路意識の向上に重要な効果があった。	られる。加えて，学校生活での自主性なども高まった。	
			・電気コース ①　生徒の視野を広め，主体的な進路選択につながるような機会として，会社見学・インターンシップを実施する。	・電気コース ①－１　各学年 1 回以上の企業見学。 ①－２　インターンシップ２社以上の実施。	・電気コース （評価指標による達成度） ①－１　実施できた。 ①－２　実施できた。 （活動計画の実施状況） ①－１　２年２回　３年１回 ①－２　２年２社	・電気コース （達成度） A （所見） ①　計画通り実施できた。	・電気コース ①－１　実際の施設を見学したり，企業の方の話を伺うことにより見聞を広げ進路選択の一助になった。 ①－２　実際に体験することにより，専門知識を深化させることができ，また企業の方の指導を受けることで社会性を身につけることができた。	・電気コース ①－１　見学企業の幅を増やし，様々な見聞を得る機会を増やしたい。 ①－２　生徒の希望をできるだけかなえられるように企業に協力をお願いする。
			・情報通信コース ①　インターンシップや企業・大学訪問を通じて企業や大学との連携を密にするとともに，生徒の進路選択に役立てる。	・情報通信コース ①－１　企業・大学訪問を実施する。 ①－２　インターンシップにＨＲ生徒の２割以上の参加を目指す。	・情報通信コース （評価指標による達成度） ①－１　２，３年生全員に対して実施できた。 ①－２　２年生の 39 %が参加できた。 （活動計画の実施状況） ①－１　２，３年生１回実施 ①－２　１社 11 名	・情報通信コース （達成度） A （所見） ①　企業より高評価を頂いた。	・情報通信コース ①－１　施設見学や話を伺うことで進路を考えるよい機会となった。 ①－２　インターンシップでは社会人としてのマナーから始まり，情報に関する専門知識を進化させる内容であり有意義な経験を積むことができた。	・情報通信コース ①－１　２，３年生で最低でも企業と大学訪問を各１回は実施したい。 ①－２　１社だけでなく計画的に受け入れ企業を増やしていきたい。
			・環境土木コース ①　関係機関との連携を図りながら，インターシップを実施し，生徒の専門に関する知識と進路選択に役立てる。	・環境土木コース ①－１　インターンシップ参加生徒数を２年生で 40 %以上とする。 ①－２　インターンシップ報告会，課題研究発表会を実施する。	・環境土木コース （評価指標による達成度） ①－１　実施企業９社 15 名 52 %の生徒が参加した。 ①－２　報告会を実施した。 （活動計画の実施状況） ①　生徒も積極的に参加した。	・環境土木コース （達成度） A （所見） ①　企業より高評価を頂き，次年度も実施したいと思う。	・環境土木コース ①　生徒の進路希望職種に応じてインターンシップ実施企業を調整している。そのため，生徒の取組も積極的になってきた。このことが企業の評価にもつながっているように思われる。	・環境土木コース ①　企業からの実施依頼もあり，生徒の進路希望に応じて計画的に実施したい。
			・建築コース ①　インターシップを通じて企業との連携を密にするとともに，生徒の進路選択に役立てる。	・建築コース ①－１　インターンシップに生徒の 20 %以上が参加できるようにする。 ①－２　インターンシップ体験後の生徒アンケート実施結果で満足度が４段階で平均 3.5 以上を目指す。 ①－３　３学期に課題研究発表会を行う。	・建築コース （評価指標による達成度） ①　おおむね目標を達成した。 （活動計画の実施状況） ①　見学や体験を通してほとんどの生徒が，仕事内容への興味や専門教科に関心を持つことができた。課題研究発表会を建築コース展で行った。	・建築コース （達成度） B （所見） ①　昨年に引き続き建築士会と連携し設計コンペに参加することができた。	・建築コース ①　生徒は，働くことや進路について真剣に考えることができた。また，建築士会の方とのディスカッションで建築士の生の声を聞くことによって，建築業に対して理解を深めることができた。	・建築コース ①　次年度も継続していきたい。
			・総合デザインコース ①　インターンシップや企業・大学訪問を通じて企業や大学との連携を密にするとともに，生徒の進路選択に役立てる。 ②　実習・課題研究を充実させ，コース展や各種コンペに参加し，対外的な活動を更に充実させる。	・総合デザインコース ①－１　インターンシップに生徒の 20 %以上が参加できるようにする。 ①－２　企業・大学訪問を実施する。 ②－１　令和元年度コース展を実施し，地域・中学校などにＰＲする。 ②－２　それぞれのテーマに分かれた課題研究に取り組み，成果を出す。	・総合デザインコース （評価指標による達成度） ①－１　インターンシップには参加することができなかった。 ①－２　JFE スチール（株）見学会に２・３年生が 参加した。また２年生が大阪工業大学を訪問した。 （活動計画の実施状況） ①②　コース展を実施し，500 名近くの来場者があった。また６次産業化プロデュース事業において，地域，中学生に向けて活動をＰＲした。	・総合ﾃﾞｻﾞｲﾝｺｰｽ （達成度） B （所見） ①②　インターンシップに関しては,生徒の希望にあった企業を見つけられなかった。コース展だけでなく，コンペやイベントに積極的に参加した。	・総合デザインコース ①　企業訪問，大学訪問を通じて，多様な進路を知ることができた。 ②　コース展，コンペ，６次産業化プロデュース事業などのイベントに参加することよって地域や企業との連携を図ることができた。	・総合デザインコース ①②　インターンシップについては，進路に繋がるような企業との連携を行いたい。 　対外的な活動については，次年度も継続していきたい。
			・海洋科学・海洋総合コース ①　関係機関と連携したフィールドワークやインターンシップを積極	・海洋科学・海洋総合コース ①　漁業体験，フィールドワーク，インターンシップを	・海洋科学・海洋総合コース （評価指標による達成度） ①　授業評価で興味・関心を	・海洋科学・海洋総合ｺｰｽ （達成度） A	・海洋科学・海洋総合ｺｰｽ ①　就業体験やフィールドワーク等を通して，専門	・海洋科学・海洋総合ｺｰｽ ①　次年度も継続して取り組んでいきたい。

			的に実施し，水産・海洋に興味関心をもたせる。	実施し，実施後アンケートで水産・海洋に興味関心を持つようになった生徒の割合 80%以上を目指す。	持った生徒の割合 87.2% （活動計画の実施状況） ① 大敷網体験４回，遊漁船体験２回，志和岐港内調査３回，吉野川河口生物調査３回，内航船インターンシップ１回等を実施した。	（所見） ① 概ね達成できた。	科目への興味・関心を高めることができた。	

学校自己評価								
年度目標					年度評価（３月１日現在）			
番号	重点課題	重点目標	活動計画	活動の評価指標（目標値）	評価指標の達成状況	総合評価	効果と検証	次年度への課題と改善策
26	工業・水産教育 ① 専門性の基礎・基本を重視するとともに地域や産業界と連携した教育の在り方を模索し，社会の変化や産業界の動向等に適切に対応できる人材の育成を目指す。	① 工業や水産に関する専門的な技術の習熟度を高め，技能の向上を図る。 （各類・コース） ② 専門的な知識・技能を身につける教育活動を展開し，各種資格や検定の合格者または合格率の増加を図る。 （各類・コース） ③ 各種競技会等へ積極的に参加し，専門技術等を高める教育を展開する。 （各類・コース）	・全類全コース ① 各コースの実態に即して，技能検定等の実施やものづくりコンテストへの出場を目指す中で，技術の向上に努める。 ② 資格取得を奨励し，資格補習を積極的に実施する。	① 各コース毎に，技能の向上を目指した取組をする中で，各種コンテスト・大会へ出場し，各専門分野での上位入賞を目指す。 ② 工業系では，「ジュニアマイスターゴールド」取得者 15 名以上，「ジュニアマイスターシルバー」30 名以上を目指す。 ③ 海洋系では「水産海洋技術検定」「栽培漁業技術検定」の合格率 90%以上を目指す。	（評価指標による達成度） （工業） ① 高校生ものづくりコンテスト県大会では各種目とも上位入賞を果たし，全国大会に出場した種目もある。 コンクリート甲子園では，全国優勝を果たした。 ② ゴールド23名（昨年28） シルバー38名（昨年25） 特別表彰７名（昨年２） （海洋） ① 東京都立戸山高校ＳＳＨ生徒研究発表会，マリンサイエンスシンポジウム，日本水産学会中国・四国支部大会，全国水産海洋系高校生徒研究発表会，環境・防災地域実践高校生サミットに参加し，発表を行った。 ③ 水産海洋技術検定 96.7%，栽培漁業検定 94.7 %合格。 （活動計画の実施状況） （工業） ① 概ね達成できた。 ② 資格取得のための補習等を計画的に実施した。 （海洋） ① 概ね達成できた。 ③ 概ね達成できた。	（達成度） （工業）Ｂ （海洋）Ｂ （所見） （工業） ① 各種コンテスト大会へ出場し，その一部は上位入賞した。 ② 表彰者総数が前年度より15%増加した。 （海洋） ① 各種発表会に積極的に参加することができた。 ③ 多くの生徒が積極的に取り組み成果をあげた。	（工業） 各コースにおける実習等でのスキルの向上や資格取得のための補習を計画的に実施した。ジュニアマイスター取得目標値を，ほぼ達成した。 （海洋） ① 発表会参加生徒については，他校生徒の発表から刺激を受け，研究への意欲が高まった。 ③ 対策プリントを配付するとともに，生徒の状況に応じた補習を実施した。	（工業） 次年度へ向け実習等のスキルの向上とともに，資格取得においては合格率の向上を図るため，補習方法や生徒の目的意識を醸成していく必要がある。 （海洋） ① 各種発表会に参加し，発表内容について指摘を受けた点について，さらに深化した研究をするようにしたい。 ③ 計画的に補習を行い，復習する習慣が身につくように指導していきたい。
			・情報科学コース ① 科目「実習」においては，口頭試問を実施し，自ら学び，考え，問題を解決する態度を育成する。 ② 資格取得を奨励し，資格補習を計画的に実施する。 ③ 各プログラミングコンテストに積極的に取り組む。	・情報科学コース ① 期限内実習レポート提出率 95%以上を目指す。 ② 情報技術検定２級の合格率が 80 %以上。IT パスポート試験合格５名以上。基本情報技術者試験合格２名以上。 ③ プログラミングコンテストの入賞を目指す。	・情報科学コース （評価指標による達成度） ① 提出率 96% ② 情報技術検定２級 75% ＩＴパスポート合格５名。 基本情報技術者合格なし。 ③ ビッグデータコンテスト２作品提出。 （活動計画の実施状況） ① 週一回の実習を行い，その都度レポートを提出させた。 ② 夏休み等に各補習を行い受験させた。 ③ ビッグデータを活用したアプリを考案した。	・情報科学コース （達成度） Ｂ （所見） ① ほぼ全員が期限までに提出できた。 ② 資格についてはほぼ目標を達成できた。。 ③ 新しくビッグデータコンテストに参加した。	・情報科学コース ① 大多数の生徒が実習後，速やかにレポート提出を完了する習慣を身につけた。 口頭試問により内容の理解度も上がった。 ② 資格試験に合格することで生徒の自信となり，学習意欲の向上に繋がった。 ③ 作品を作りコンテストへ出場することで達成感が生まれた。創意工夫する能力が身についたり，ビッグデータにより地元の理解につながった。	・情報科学コース ① 極わずかな生徒が提出期限に間に合わない。粘り強く指導し，今後も継続していく。 ② 情報技術検定は昨年より合格率は上がったが目標は達成できていない。年間計画を見直し対応していく。 ③ IT パスポートの合格者は目標を達成できた。継続して合格するように指導法を検討したい。 次年度も継続できるように関係機関との連携を図る。
			・環境科学コース ① 科目「実習」においては，口頭試問を実施し，自ら学び，考え，問題を解決する態度を育成する。 ② 徳島市内を流れる河川の水質調査を行い，徳島市，徳島県と連携して，郷土の自然環境の保護に積極的に取り組む人材を育成する。	・環境科学コース ① 期限内実習レポート提出率 95%以上を目指す。 ② 徳島市・徳島県の環境担当部署との連携を図る。	・環境科学コース （評価指標による達成度） ① 提出率 99% ② SSH 事業を活用し水質測定技術講演会を行った。 ③ 各学年の乙４取得率 1 年 86.4% 2 年 82.1%	・環境科学コース （達成度） Ｂ （所見） ① ほぼ全員が期限までに提出できた。	・環境科学コース ① 実習レポートに関しては一部の生徒で提出が不十分なときがあった。 ② 研究発表会・コンテスト等においては，積極的に取り組み，成果を上げることができた。	・環境科学コース ① 検定や資格試験の補習については，次年度も計画的に実施していきたい。 ② ＳＳＨ事業を進めることによって，科学的な事象や事実に触れる機会と

			③　資格取得を奨励し，資格補習を計画的に実施する。 ④　科学論文発表（ポスター発表）を目標に積極的に取り組む。 　ものづくりに係わる競技大会を目標に積極的に取り組む。	③　危険物乙４の取得率が 80 %以上を目指す。 ④　ＳＳＨ発表会（校内，県，四国）での発表を目指す。 　ものづくりコンテスト四国大会に出場し，全国大会への出場を目指す。	3 年　88.9 % ④　発表会では，校内，県大会，四国大会でのポスター発表を行った。ものづくりコンテストは，四国大会に出場した。 （活動計画の実施状況） ①　実習の各班で徹底した。 ②　DO 測定について実習を行った。 ③　補習を実施し，高い合格率を目指した。 ④　今年度のものづくりコンテストは，県大会と四国大会が本校で行われた。	③　資格取得については，目標を十分に達成した。また，「甲種危険物取扱者」，「公害防止管理者」など高度な資格についても合格者を出すことができた。 ④　ＳＳＨ発表会（校内，県，国）でポスター発表した。ものづくりコンテストで四国大会に出場したが，全国大会には出場できなかった。	③　資格試験においては，全学年で目標を達成することができた。また，さらに高度な資格にチャレンジしようとする生徒の意識も見られた。	なるように計画していきたい。
			・機械コース ①　資格取得を奨励し，資格補習を計画的に実施し，合格率のアップを図る。 ②　ものづくりに係わる競技大会を目標に積極的に取り組む。	・機械コース ①　２級ボイラー技士（２年）の合格率を補習出席者の 60 %以上。機械製図検定（３年）の合格率を 65 %以上を目指す。 ②　ものづくりコンテストで，県内優勝し，四国大会に進出する。また，四国地区高校生溶接技術競技会では県内大会を勝ち抜き，本大会に出場する。	・機械コース （評価指標による達成度） ①　２級ボイラー技士（２年）の合格率は，補習出席者の 48.5 %。機械製図検定（３年）の合格率は 67.6 %であった。 ②　ものづくりコンテストで，県内優勝し，四国大会に進出した。また，四国地区高校生溶接技術競技会では県内大会を勝ち抜き，本大会に第 3 位に初入賞した。 （活動計画の実施状況） 早朝補習，放課後補習，夏季休業日中の補習等を実施し対応した。	・機械コース （達成度） B （所見） ①　機械製図検定の合格率は昨年度より４ポイント上回り，目標を達成した。２級ボイラー技士は目標の合格率を 11.5 ポイント下回った。 ②　各種大会・コンテストでも当初の目標を上回り，四国地区高校生　溶接技術競技会では初入賞した。	・機械コース ①　資格取得は専門教育・キャリア教育を進める上で，生徒に大きな自信を持たせることができた。また，2 級ボイラー技士試験は，半年以上の長期にわたって早朝・放課後の補習を行うため，学習する習慣づけや学習の場としてのクラスの雰囲気作りにも効果があった。 ②　各種大会・コンテストでは機械工作部員が手分けして出場した。このことにより，専門分野において非常に高度な技能を身につけることができた。	・機械コース ①　補習の教材やノウハウを，確実に次年度の担当者に引き継ぐシステムの構築が必要である。 ②　各種大会・コンテストへの出場については，練習に危険性が伴うため，安全対策・安全指導を絶えず心がける必要がある。
			・生産システムコース ①　メカトロニクス関連企業に就職する際，学習していて良かったと評価されるような実習をしっかり実践する。 ②　コースの基幹となる資格を取得できるよう，最大限のサポートをする。 ③　各種の技術的なコンテストに応募出場し，賞を得る。	・生産システムコース ①　シーケンスなどの制御関連の学習内容を充実させる。 ②　ＤＤ３種において，クラス 60 %以上の合格率を目指す。 ③　ロボット競技など，全国大会出場を目指す。	・生産システムコース （評価指標による達成度） ①　シーケンス制御に関してヤングマイスター育成事業を通して企業での実践的な内容を学習できた。 ②　合格率は 61 %であり，目標を達成した。 ③　ロボット競技は全国大会出場は果たせなかった。 （活動計画の実施状況） ①　２年生の実習でヤングマイスター育成事業を通して企業での実践的なシーケンス制御の学習した。 ②　放課後や早朝の補習を実施した。 ③　ロボット競技ではマイコン実習等の内容を生かしてより実践的なプログラミンを行い，競技ロボットを製作した。	・生産ｼｽﾃﾑｺｰｽ （達成度） B （所見） ①　生産現場での実践的なシーケンス制御に，生徒はより意欲的に取り組んだ。 ②　合格率が目標を達成できた。 ③　ロボットを動作させるという実践的なプログラミングはより意欲的に取り組め，できたときの達成感も高いと思われる。	・生産システムコース ①　進路先と学習内容や，社会と学習内容のマッチングは大切で，生徒はそういった点にも敏感であり，より実践的な内容を提供していきたい。 ②　資格試験を通して日々の学習内容との関連を感じ，生徒の学習意欲を高める必要性を感じた。 ③　各種競技や連携活動など，意欲的に取り組める環境作りが大切であり，生徒はそれに答えてくれるだけの力がある。	・生産システムコース ①　常に企業等の実践的な技術を提供できるように準備したい。 ②　意識付けも含めて指導していきたい。 ③　学習内容を生かした応用的な技術での設計製作は難しい面があるが，生徒の可能性を信じて取り組んでいきたい。
			・電気コース ①　資格試験に計画的に取り組み，適切な指導を行い合格率を上げることにより，知識・技能の向上と，主体性の確立を目指す。 ②　ものづくりコンテストに出場す	・電気コース ①　１学年の第２種電気工事士合格率 90 %を目指す。 ②　県大会２位以内，四国大	・電気コース （評価指標による達成度） ①　97 %達成。 ②　県大会優勝。四国大会入賞できず。 （活動計画の実施状況）	・電気コース （達成度） B （所見） ①　達成できた。	・電気コース ①　技術技能習得に対して補習等を通じて前向きに長時間取り組むことによって達成感を得ることができ自信になったと考え	・電気コース ①　苦手な生徒に対して個別の適切な対応を引き続き続けていく。 ②　大会結果を踏まえ，指導体制の維持，指導技術

			ることにより，技能の向上を目指す。	会入賞を目指す。	①　上期試験で60名のうち６名不合格だったが下期試験そのうち５名合格できた。 ②　四国大会では入賞できなかったが，中央職業能力開発機構主催の全国大会で銅賞を得ることができた。	②　四国大会は入賞できなかったが，他の全国大会で入賞でき，十分な成果があった。	られる。 ②　それまでの専門知識をもとに，レベルの高い課題に取り組むことにより，専門知識を深化させ，大会で入賞することにより達成感も得られたと考えられる。	の向上を目指す。
			・情報通信コース ①　資格取得を奨励し，資格補習を計画的に実施する。 ②　ものづくりに係わる競技大会を目標に積極的に取り組む。	・情報通信コース ①　国家資格取得を目指し，一人２つ以上の資格を取得する。 ②　マイコンカーラリーで四国・全国大会出場を目指す。	・情報通信コース （評価指標による達成度） ①　達成度96％ 工事担任者ＤＤ３種28名全員合格（２年生） ＩＴパスポート10名合格 ②　全国大会出場 （活動計画の実施状況） 資格取得に向けて早朝補習，放課後補習を計画的に行った。	・情報通信コース （達成度） A （所見） ①　達成できた。 ②　達成できた。 全国大会では残念ながら入賞を逃がした。	・情報通信コース ①　全員が国家資格取得に向け意欲的に取り組んだ。 ②　四国大会や全国大会に２年連続で出場している。継続できるよう取り組みたい。	・情報通信コース ①　積極的に資格取得を希望する生徒が増加している。計画的に補習等を行い結果に結びつけたい。 ②　全国大会入賞を目標に取り組みたい。
			・環境土木コース ①　専門知識の理解と意欲向上のため資格取得を目指す。 ②　ものづくりコンテスト測量部門に出場をする。 ③　コンクリート甲子園に出場する。	・環境土木コース ①　２級土木施工管理技術検定・学科試験70％以上，測量士補30％以上の合格を目指す。 ②　四国・全国大会出場を目指す。 ③　入賞を目指す。	・環境土木コース （評価指標による達成度） ①　２級土木施工管理技術検定・学科試験合格55％，測量士補合格４％ ②　全国大会出場。 ③　全国優勝。 （活動計画の実施状況） 資格取得に向け計画的に実施した。	・環境土木コース （達成度） B （所見） 今後も継続的に取り組みたいと思う。	・環境土木コース ①　２級土木施工・筆記試験については，３年生で89％が合格することができた。 ②③　コンテスト等の結果については良い結果につながっているため継続して取り組みたい。	・環境土木コース 資格試験について，新たな目標設定を検討中である。 本年度以上となるようにさらに取り組みたい。
			・建築コース ①　有益な資格を取得させ，検定の合格を目指す。 ②　ものづくりに係わる競技大会を目標に積極的に取り組む。	・建築コース ①　有益な資格取得を目指し，２つ以上の資格を取得する。 ②　ものづくりコンテストで，県予選突破し，四国大会に進出する。	・建築コース （評価指標による達成度） 目標には届かなかった。 （活動計画の実施状況） 主に実習において実施できている。	・建築コース （達成度） C （所見） 昨年度の６割程度の成果であった。	・建築コース 実習時に行うことで少人数学習となり理解できていない生徒に対する指導が容易であり確実な知識の習得につながっている。	・建築コース ①　資格試験の時期が授業の進度よりも早く，内容をすべて履修しないまま，資格試験に臨まなければならない状況であるが，今後も生徒が積極的に挑戦できるようにしたい。 ②　製作予算などをもう少し確保したい。
			・総合デザインコース ①　有益な資格を取得させ，検定合格率向上を目指す。 ②　資格取得を奨励し，資格補習を積極的に実施する。 ③　デザイン分野の各種コンクールに出品し，入賞を目指す。	・総合デザインコース ①　レタリング70％以上，トレース80％以上，色彩検定60％以上の合格率を目指す。 ②　補習に積極的に参加させる。 ③－１　ものづくりコンテストで県大会突破を目指す。 ③－２　課題研究の作品を各種コンペに出品し，入賞10以上を目指す。	・総合デザインコース （評価指標による達成度） ①　レタリング91％，トレース90％，色彩検定82％の合格率であった。 （活動計画の実施状況） ②　色彩検定やグラフィックデザイン検定，危険物の補習については早朝に行い，100％に近い出席率であった。 ③　ものづくりコンテストは，内容の変更に伴い，不参加であった。 おおしま絵本コンクール，修成建築設計競技，パテントデザインコンテストで入賞を果たした。	・総合ﾃﾞｻﾞｲﾝｺｰｽ （達成度） A （所見） 各検定で目標とする合格率を上回った。	・総合デザインコース 実技検定であるレタリング，トレース検定は実習時だけでなく，放課後や家庭での学習で成果を上げている。 色彩検定，グラフィックデザイン検定，危険物の補習については早朝補習を計画的に行うことにより，成果を上げてきた。	・総合デザインコース ①　資格については，今後も継続して，各検定の最上位を目指していきたい。 ②　積極的な資格補習への参加を促したい。 ③　各種コンペに今後も継続して出品していきたい。
			・海洋科学・海洋総合コース ①　１年生で基本的なロープワークを身につけさせる。 ②　四国地区の水産系高校の生徒研究発表会や意見体験発表会およびＳＳＨ生徒発表会に参加する。	・海洋科学・海洋総合コース ①　基本的な５種類のロープワークを習得している生徒の割合90%以上を目指す。 ②　四国大会で最優秀賞をとり，全国大会出場を目指す。	・海洋科学・海洋総合コース （評価指標による達成度） ①　基本的な５種類のロープワークを習得している生徒の割合93.3％であった。 ②　水産・海洋系高校産業教育意見体験発表会四国地区大会最優秀賞，全国大会奨励賞，水産・海洋系高校生	・海洋科学・海洋総合ｺｰｽ （達成度） B （所見） ①　おおむね目標が達成できた。 ②　全国大会にも出場し，目標を	・海洋科学・海洋総合ｺｰｽ ①　繰り返し練習を行い，最低限必要なロープワークは確実に習得させていきたい。 ②　全国大会に出場することはできたが，全国大会で入賞できるように生徒のプレゼンテーション能	・海洋科学・海洋総合ｺｰｽ ①　繰り返し練習し，素早く確実にロープを結ぶ技術を身に付けさせていきたい。 ②　一部の生徒の指導にとどまることなく，全体のレベルアップに取り組んでいきたい。

					徒研究発表会四国地区大会優秀賞。 （活動計画の実施状況） ①　実習で繰り返し練習を行い，ロープワークの技術を身につけさせるようにした。 ②　意見体験発表会において，四国大会最優秀賞を受賞し全国大会に出場することができた。	達成することができた。	力を高めていきたい。	

学　校　自　己　評　価								
年　度　目　標					年　度　評　価（　３　月　１　日 現在　）			
番号	重点課題	重点目標	活動計画	活動の評価指標（目標値）	評価指標の達成状況	総合評価	効果と検証	次年度への課題と改善策
27	家庭・地域等との連携・貢献 ①　保護者への連絡・学校の情報提供を，文書とホームページへのアップの両方で行う。	①　シャトル便の積極的な活用を図り，家庭との連携を密にするとともに，生徒の社会規範確立を目指す。また，ＰＴＡ活動への積極的な参画を進め，保護者と教員がより頻繁に意見を交換する機会の充実に努める。 （企画部・総務課） （企画部・企画広報課）	①　生徒・保護者・教員相互の関わりについて研修を深める。 ②　体育祭や文化祭のＰＴＡ活動における内容の検討と充実を図るために保護者との連携を密にする。 ③　学校と家庭との連携を密にし，ホームページでの行事参加の呼びかけをする。 ④　ＰＴＡ役員と生徒代表の意見交換会を設け，保護者と生徒の意思疎通を図る。	①　保護者・教員参加のもと学校行事関係のＰＴＡ役員会を２回以上実施する。 ②　体育祭・文化祭実行委員会を開催し，役員の参加 60 %以上を目標にする。 ③　文化祭・体育祭の保護者向け案内をホームページにアップする。毎月初めに保護者向けの各種案内を確認できるように，月末までにホームページの更新を行う。 ④　学校祭等について意見交換会を実施する。	（評価指標による達成度） ①　ＰＴＡ役員会は４回開催。役員の参加率は 70 %を確保した。 ②　体育祭・文化祭では役員の 80 %が参加した。 （活動計画の実施状況） 昨年度に引き続き，活発なＰＴＡ活動を行っている。 生徒会担当教員と打ち合わせを行うなど，文化祭において支援活動を実施した。	（達成度） Ａ （所見） ＰＴＡ役員になりたい方が多く，各事業にも積極的に参加していただいた。	①　ＰＴＡによる積極的な役員会の運営が行われた。 ②　体育祭・文化祭への積極的な参加が見られた。 ③　連絡文書が中心となり，ホームページへの掲載ができなかった。 ④　意見交換会は開催できなかったが，生徒会担当教諭と打ち合わせができた。	①　次年度は高Ｐ連の中四国大会の準備が始まることから，役員が増えると予想されるが，できるだけ保護者の負担とならないように内容を厳選して開催する。 ②　引き続き役員会への参加を呼び掛ける。 ③　ホームページだけでなくメールやＳＮＳをもっと活用する。 ④　体育祭・文化祭以外でも生徒会と連携を図る。
28	②　各事業の担当がそれぞれに報道資料を提供するよう，システムを確立する。	②　積極的な情報発信・広報活動を行い，地域と密接に連携，貢献できる学校づくりに努める。 （企画部・総務課） （企画部・企画広報課）	①　地域・大学等と連携した事業を積極的に実施する。 ②　本校の活動を積極的に広報する。	①　地域・大学等で小学生を対象とした出前授業を実施する。 ②　新聞やテレビなどのメディアを通じて積極的に行う。	（評価指標による達成度） ①　SSH 事業を中心に活発に行われた。地域との連携については，ユネスコスクール事業によるボランティア活動も徳島ユネスコ協会と連携をとりながら行うことができた。 （活動計画の実施状況） ②　新聞社の取材は 18 回，テレビ局の取材は９回，ほかにマスコミへの資料提供も 12 回実施され，広報活動が効果的に行われた。	（達成度） Ｂ （所見） ①　ユネスコスクールについてはさらに組織作りを進める必要がある。 ②　マスコミを通して本校の広報活動が活発に行われた。	①　地域や校外の団体との連携により，生徒の活動がより充実し，深みを増し，学習効果が高められた。 ②　マスコミの取材を受けることによって，より広範囲で効果的な広報活動を行うことができた。	持続的に地域・大学・企業等と連携しながら，広報活動ができるように努める。
29	③　中学校関係者への学校紹介イベントの年間スケジュールを積極的に広報する。	③　ホームページや中学生体験入学，中学校訪問等を通して，本校の教育内容・教育活動についての広報活動を積極的に実施する。 （教務部・教務課） （企画部・総務課） （企画部・企画広報課）	①　各類やコースの特色について，中学生に興味・関心を持ってもらえるような内容を検討し，より多くの目的意識と類の特色を理解した中学生に受検してもらう。 （教務部・教務課） （企画部・企画広報課） ②　広報内容を吟味し，速やかな情報発信を行う。 （企画部・企画広報課） ③　中学校を訪問し，本校の教育内容・教育活動について説明し，中学校教職員に本校について理解してもらう。 （企画部・企画広報課）	①　体験入学参加者へのアンケート調査で，満足度の４段階評価が3.6以上とする。 ②　学校ホームページの更新回数を月３回以上とする。また,緊急連絡についてホームページを活用しすみやかに全関係者に周知できるようにする。 ③　近隣中学校への学校訪問を年１回以上実施する。	（評価指標による達成度） ①　中学生体験入学参加中学生 671 名(昨年度 663 名）満足度の４段階評価は 3.8 ②　４月から１月までの更新 ４月６回，５月 12 回， ６月６回，７月 15 回， ８月６回，９月 14 回， 10 月 19 回，11 月 38 回， 12 月 21 回，１月 13 回， 合計 150 回(昨年度 127 回) （活動計画の実施状況） ③　６月から 11 月までの中学校進学説明会 27 校を訪問。	（達成度） Ａ （所見） 中学生体験入学は，内容を精選しコンパクト化することによって昨年と同等の成果を上げることができた。 オープンスクールは開催時期等について再考する必要がある。	①　参加中学生の 97 %が体験入学前と比べて，徳島科学技術高校について理解できたと答え，93 %が体験内容がよかったと答えている。徳島科学技術高校の広報という点では当初の目的を達成できた。 ②　ホームページの更新回数は約 20 %増加したことで，本校の取組の理解が広がっている。 ③　本校の取組が直接中学生に理解され大変有効であった。	広報活動については，時期的な問題やコンパクト化等，より中学生が参加しやすい状況を考慮して，計画していかなければならない。